

10月1日（火）、10月18日（金）に開催された実践研究部会での活動を紹介します。

### 10月1日（火）に参加のみなさん

瀧田 健司先生（神沢中）、丹羽 良平先生（当知中）、濱地 光大先生（富士中）  
山下 剛史先生（沢上中）、佐藤 友哉先生（港北中）

### 10月18日（金）に参加のみなさん

瀧田 健司先生（神沢中）、佐々 孝先生（御田中）、阿比留 慶治先生（山王中）  
丹羽 良平先生（当知中）、濱地 光大先生（富士中）、山下 剛史先生（沢上中）  
小比賀 正規先生（扇台中）、佐藤 友哉先生（港北中）、浦谷 神佑先生（港北中）

### 秋の授業公開に向けて

今回の授業実践では、単元内自由進度学習を行う際に、単元の導入段階でどのような手だての工夫をしているかを参観してもらえるように、単元の早い段階の授業(3時/11時間完了)を公開することになりました。

- 探究課題について
  - ・ 単元の初めに、単元に関わる疑問(疑問)をたくさん出させる。疑問を学級全体でリストアップし、その中から一つ選ばせ、個々の探究課題とする。
  - ・ 可能な生徒は複数の課題に挑戦するのもよい。他の生徒と相談してもよい。
  - ・ 本実践における探究課題は、生徒の意欲を高め、疑問を確認するための課題である。
  - ・ 探究課題を全て解決することにより、教科書の内容を網羅して学習したことになる。
- 学習到達基準について
  - ・ 学習到達基準によって、何ができたらよいかが示される。
  - ・ 3観点の枠組みを取り外し、未習の語句を使わず、分かりやすい言葉で作る。
- 評価について
  - ・ 単元内自由進度学習を進める過程をポートフォリオに記録させる。その中に学習到達基準に挙げられた内容を網羅できるような計画を立てさせる。
  - ・ 必修内容が含まれた学習到達基準を基に、単元全体で評価を行うことで、評価の機会を平等にする。
  - ・ 一時間ごとに評価する必要はなく、単元全体で評価すればよい。一斉授業よりも一人一人をよく見るようになるので、評価することは可能である。



【「光の性質」実験器具の一部】



【疑問を発表する様子】

以上の考えを基に、参加された先生で模擬授業を行いました。「光の性質」に関わる実験器具をたくさん準備し、それらを自由に触りながら生徒が疑問にあげそうなことを実際に発表し、黒板にまとめました。